

東海大学医学部附属病院にて
2015年1月1日～2025年12月31日の期間に
消化器外科、婦人科および泌尿器科で下腹部手術を受けられた患者さん
およびそのご家族の方へ
生命科学・医学系研究に対するご参加のお願い

【研究の実施について】

東海大学医学部附属病院では、上記のご病気で手術された患者さんの情報を使い、病気の理解や治療法の向上を目的とした研究を行っています。

この研究は、東海大学医学部臨床研究審査委員会の承認を受け、法律や倫理指針に従って実施されます。患者さんの個人情報、氏名等の情報を削除し、個人が特定できないよう加工して使用いたします。なお、研究成果は、学会や論文で発表されることがあります。

【参加を希望されない場合】

ご自身やご家族の情報を研究に使用されたくない場合は、研究成果が公表される前までに、下記の連絡先までご連絡ください。ご連絡があれば、研究対象から除外いたします。但し、研究成果の公表手続きがなされた後には除外することができませんので、ご了承ください。

なお、本研究へのご参加の有無が診療や治療に影響することはありませんのでご安心ください。

【研究の概要】

対象者：西暦2015年1月1日～2025年12月31日の間に、当院消化器外科、婦人科および泌尿器科で下腹部の手術を受けた方

研究課題名：術前フレイルが85歳以上の下腹部手術のアウトカムに与える影響：後方視的コホート研究

倫理審査番号：25R198

研究期間：【許可日】～2026年12月1日

26424

【本研究の目的・意義】

【目的】超高齢社会において85歳以上の下腹部手術の症例は増加しています。しかし、年齢だけでは術後の合併症リスクを十分に予測することは困難であり、個々の患者の脆弱性（フレイル）の客観的評価が求められます。

【意義】術前フレイルが術後合併症や在院日数、退院時ADLに与える影響を明らかにすることです。これにより、術前の適切なハイリスク患者の同定と、個別化された麻酔管理の検討を目指します。

【使用する情報】

患者さんの基礎疾患およびフレイルの有無

患者さんの年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA-PS、血清アルブミン値（手術に最も近い術前値）、術前腰椎CT画像

術式、手術時間、麻酔時間、出血量昇圧剤使用の有無、輸液量、輸血の有無

術後離床の延長の有無（術後2日以内の歩行）、術後肺合併症（PPCs）の発生、心不全、急性腎障害（AKI）、深部静脈血栓症などの発生、術後せん妄の有無

臨床経過：術後在院日数

[個人情報の取り扱い]

本研究で得られた情報は、氏名等の情報を削除し、個人が特定できないよう加工して、第三者には個人が特定できない形で使用します。加工する前の個人情報と研究データを結びつける一覧表（対応表）は厳重に管理し、研究終了後5年後もしくは成果発表から3年後の何れか遅い方に破棄します。

[情報の開示について]

ご希望があれば、研究計画の資料やご自身の情報について、可能な範囲で開示いたします。ご家族と一緒に説明を受けることも可能です。ご不明な点があれば、遠慮なくお問い合わせください。

[研究資金・利益相反^{りえきそうはん}について]

この研究は学内の研究費で行われ、企業からの資金提供はありません。そのため、現時点で開示すべき利益相反はありません。

[研究組織]

研究機関名：東海大学医学部付属病院

研究責任者所属・氏名：外科学系麻酔科学 渡邊真理子

本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

[お問い合わせ先]

東海大学医学部付属病院

電話：0463-93-1121（代表） 内線：5165

研究責任者（代表者）：麻酔科 渡邊真理子

[更新履歴]

2026年2月15日 第1版